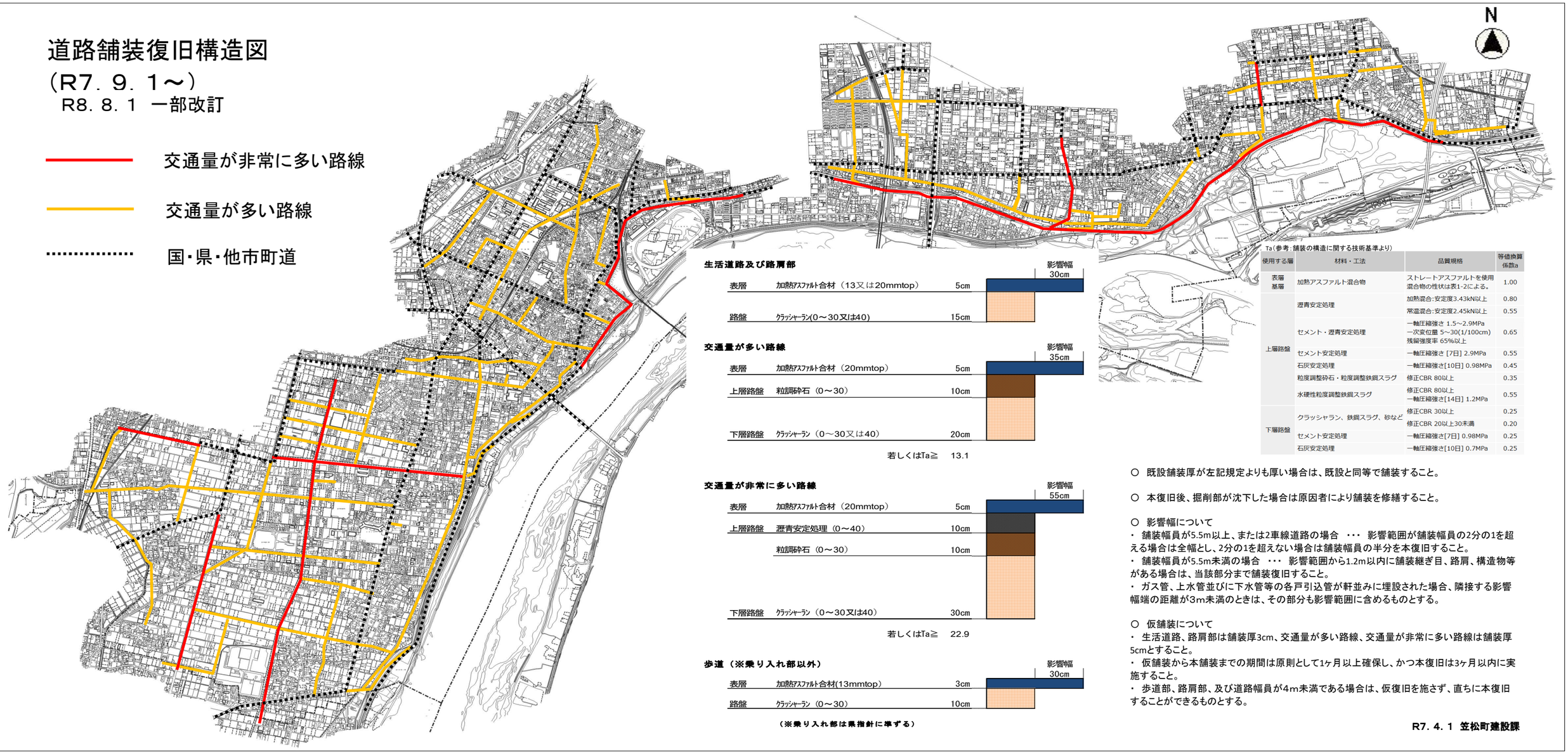
道路舗装復旧構造図

（R7．9．1～）
R8．8．1　一部改訂

交通量が非常に多い路線

交通量が多い路線

国・県・他市町道



生活道路及び路肩部

			影響幅
表層	加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ合材（13又は20mmtop）	5cm	30cm
路盤	ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝ(0～30又は40)	15cm	

交通量が多い路線

			影響幅
表層	加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ合材（20mmtop）	5cm	35cm
上層路盤	粒調砕石（0～30）	10cm	
下層路盤	ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝ（0～30又は40）	20cm	

若しくはTa≧　13.1

交通量が非常に多い路線

			影響幅
表層	加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ合材（20mmtop）	5cm	55cm
上層路盤	瀝青安定処理（0～40）	10cm	
	粒調砕石（0～30）	10cm	
下層路盤	ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝ（0～30又は40）	30cm	

若しくはTa≧　22.9

歩道（※乗り入れ部以外）

			影響幅
表層	加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ合材(13mmtop)	3cm	30cm
路盤	ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝ（0～30）	10cm	

（※乗り入れ部は県指針に準ずる）

Ta（参考：舗装の構造に関する技術基準より）

使用する層	材料・工法	品質規格	等値換算係数a
表層 基層	加熱アスファルト混合物	ストレートアスファルトを使用混合物の性状は表1-2による。	1.00
上層路盤	瀝青安定処理	加熱混合:安定度3.43kN以上	0.80
		常温混合:安定度2.45kN以上	0.55
	セメント・瀝青安定処理	一軸圧縮強さ 1.5～2.9MPa 一次変位量 5～30(1/100cm) 残留強度率 65%以上	0.65
	セメント安定処理	一軸圧縮強さ [7日] 2.9MPa	0.55
	石灰安定処理	一軸圧縮強さ[10日] 0.98MPa	0.45
	粒度調整砕石・粒度調整鉄鋼スラグ	修正CBR 80以上	0.35
	水硬性粒度調整鉄鋼スラグ	修正CBR 80以上 一軸圧縮強さ[14日] 1.2MPa	0.55
下層路盤	クラッシャラン、鉄鋼スラグ、砂など	修正CBR 30以上	0.25
		修正CBR 20以上30未満	0.20
	セメント安定処理	一軸圧縮強さ[7日] 0.98MPa	0.25
	石灰安定処理	一軸圧縮強さ[10日] 0.7MPa	0.25

○　既設舗装厚が左記規定よりも厚い場合は、既設と同等で舗装すること。

○　本復旧後、掘削部が沈下した場合は原因者により舗装を修繕すること。

○　影響幅について
・　舗装幅員が5.5m以上、または2車線道路の場合　・・・　影響範囲が舗装幅員の2分の1を超える場合は全幅とし、2分の1を超えない場合は舗装幅員の半分を本復旧すること。
・　舗装幅員が5.5m未満の場合　・・・　影響範囲から1.2m以内に舗装継ぎ目、路肩、構造物等がある場合は、当該部分まで舗装復旧すること。
・　ガス管、上水管並びに下水管等の各戸引込管が軒並みに埋設された場合、隣接する影響幅端の距離が3m未満のときは、その部分も影響範囲に含めるものとする。

○　仮舗装について
・　生活道路、路肩部は舗装厚3cm、交通量が多い路線、交通量が非常に多い路線は舗装厚5cmとすること。
・　仮舗装から本舗装までの期間は原則として1ヶ月以上確保し、かつ本復旧は3ヶ月以内に実施すること。
・　歩道部、路肩部、及び道路幅員が4m未満である場合は、仮復旧を施さず、直ちに本復旧することができるものとする。

R7．4．1　笠松町建設課